

《報告》

下関市三軒屋海岸で採集した甲虫類

松田真紀子<sup>1)</sup>・川野敬介<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 豊田ホタルの里ミュージアム・サポーター会員, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

<sup>2)</sup> 豊田ホタルの里ミュージアム, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

はじめに

海岸は、塩分や波浪、水圧など非常に厳しい環境であるにも関わらず多様な分類群の昆虫類が進出し、その数は陸上に生息する昆虫に比べればはるかに少ないものの、未知なる種が見つかる可能性は高いと考えられている(丸山, 2004)。しかしながら、護岸の改修や開発により自然海岸が消滅しつつあり、未知種を含む多くの昆虫の減少や絶滅が危惧されている(丸山, 2004)。そのため、海岸に生息する昆虫相の調査は急務である(平野, 1993; 河上・林, 2007)。そこで、本稿では下関市の瀬戸内海側の自然海岸において調査し、得られた甲虫類について報告する。なお、他の分類群や昆虫以外の生物も確認・採集されたが、それについては別の機会に譲る。

調査地と調査方法

調査は山口県下関市長府宮崎町三軒屋海岸(33°59' N, 130°59' E)で、2011年に松田が行った(図1, 2)。調査方法は、調査範囲内を目視で探し、採集した。採集に際して網やトラップ等道具は使わなかった。調査地は、下関市の瀬戸内海側の海岸で唯一自然を残した場所である三軒屋海岸の北東 - 南西約200m、北西 - 南東約30mの範囲であった。調査範囲の大部分は砂浜で、砂浜の陸地側にはハマダイコンやソルナ、ハマナデシコ、ハマボス、ハマゴウ、テリハノイバラ、ハマエンドウ、ハマヒルガオなどの海浜植物群落が生息していた。砂浜の底質は花崗岩を起源とした砂〜中礫であった。海側には花崗岩の岩場があり、波の浸食の影響で非常に歪な形状をしていて、多くの窪みや隙間があった。なお、この岩場は満潮時大部分が水没した。植物の破片やゴミなどの漂着物が砂浜中央付近と陸地側に調査期間中あったが、砂浜中央付近の漂着物は乾燥していることが多く、陸地側の漂着物は常に湿っていた。

調査によって採集した標本の同定は大部分を林成多博士に依頼した。標本は豊田ホタルの里ミュージアムに収蔵した。

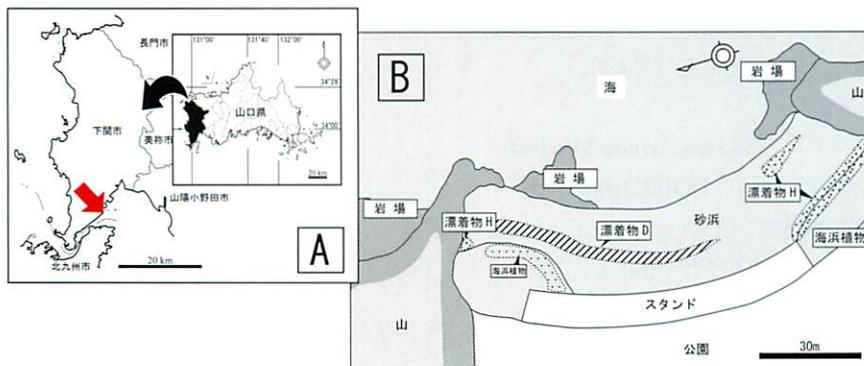


図1 調査地の位置(A)と環境概要(B)



図2 調査地の環境  
A, 調査地全景；B, 岩場；C, 湿った漂着物（漂H）；D, 乾燥した漂着物（漂D）；E, 海浜植物群落。

## 結 果

調査の結果、22種を確認することができた（図3）。

以下に、採集日、個体数、採集した環境の順に示した。なお、調査は2011年に行ったので採集年は省略した。また、採集した環境は4つ（岩場：岩、乾燥した漂着物：漂D、湿った漂着物：漂H、海浜植物群落：海植）に分けて示した（図1,2）。

### オサムシ科 Carabidae

ヒョウタンゴミムシ *Scarites aterrimus* Morawitz

[採集記録] 8/25, 1ex., 漂H; 10/3, 2exs., 漂H

### ガムシ科 Hydrophilidae

コケシガムシ *Cercyon aptus* Sharp

[採集記録] 10/3, 2exs., 漂D, 1ex., 漂H

ヒメケシガムシ *Cercyon algarum* Sharp

[採集記録] 10/3, 2exs., 漂H, 1ex., 漂D

フチトリケンガムシ *Cercyon dux* Sharp

[採集記録] 10/8, 2exs., 漂 D, 2exs., 漂 H

#### エンマムシ科 Histeridae

ハマベエンマムシ *Hypocaccus varians* (Schmidt)

[採集記録] 日付不明, 1ex., 持ち帰った砂の中から採集

#### ハネカクシ科 Staphylinidae

アオキツツムネウミハネカクシ *Diaulota aokii* Sawada

[採集記録] 10/19, 1ex., 岩; 10/20, 1ex., 岩

フトツヤケシヒゲブトハネカクシ *Aleochara squalithorax* Sharp

[採集記録] 10/9, 1ex., 漂 D

*Medon prolixus* (Sharp) (和名なし)

[採集記録] 10/19, 1ex., 漂 D

アカウミベハネカクシ *Cafius rufescens* (Sharp)

[採集記録] 10/3, 20exs., 漂 D, 11exs., 漂 H; 10/8, 9exs., 漂 D; 10/9, 4exs., 漂 D

アバタウミベハネカクシ *Cafius vestitus* (Sharp)

[採集記録] 9/28, 2exs., 漂 H; 10/3, 19exs., 漂 H, 8exs., 漂 D; 10/8, 10exs., 漂 D; 10/9, 5exs., 漂 D; 10/19, 3exs., 漂 D

ホソウミベハネカクシ *Cafius algarum* Sharp

[採集記録] 9/27, 1ex., 漂 D; 10/19, 1ex., 漂 D

ウミベアカバハネカクシ *Phucobius simulator* Sharp

[採集記録] 9/2, 1ex., 海植; 9/28, 4exs., 漂 H; 10/3, 2exs., 漂 H, 3exs., 漂 D; 10/8, 1ex., 漂 D; 10/19, 2exs., 漂 D

ヒメハネカクシ属の一種 *Atheta* sp.

[採集記録] 10/3, 1ex., 漂 H

#### ジョウカイモドキ科 Melyridae

イソジョウカイモドキ *Laius asahinai* Nakane

[採集記録] 8/8, ♂2♀1, 岩; 8/20, ♂2♀1, 岩; 9/2, L1, 岩; 9/26, L1, 岩; 9/28, L1, 岩

#### コメツキムシ科 Elateridae

ツシマヒメサビキコリ *Agrypnus tsushimensis* Ohira

[採集記録] 8/25, 1ex., 岩

アカアシコハナコメツキ *Paracardiophorus sequens* (Candèze)

[採集記録] 10/10, 6exs., 海植

#### ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

ゴモクムシダマシ *Pedinus japonicus* (Seidlitz)

[採集記録] 9/26, 2exs., 海植

ヒメホソハマベゴミムシダマシ *Micropedinus pallidipennis* Lewis

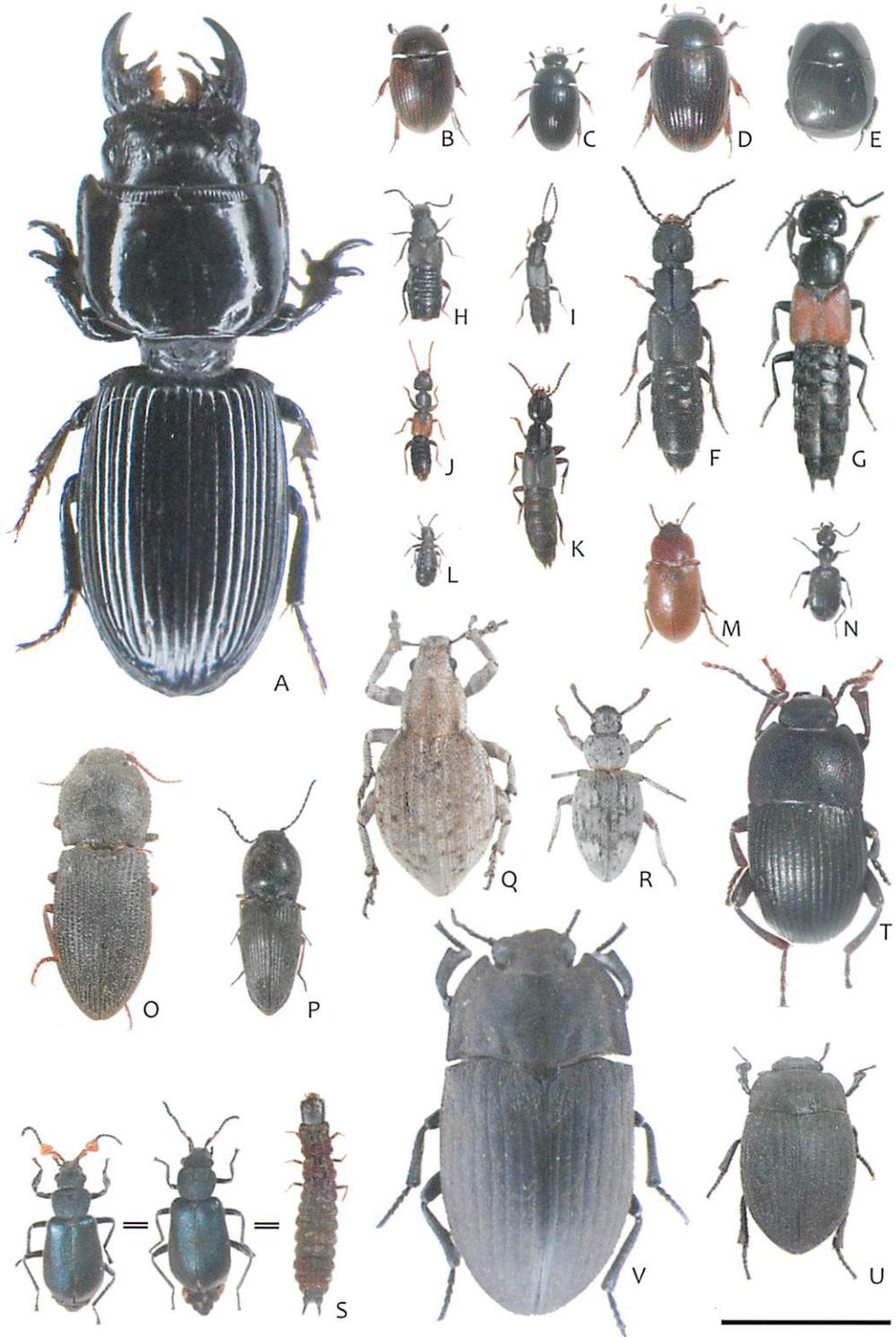
[採集記録] 8/25, 3exs., 漂 H; 9/2, 4exs., 漂 D; 9/27, 2exs., 漂 D

オオスナゴミムシダマシ *Gonocephalum pubens* Marseul

[採集記録] 10/20, 2exs., 海植

オオマルチビゴミムシダマシ *Caedius maderi* Kaszab

[採集記録] 10/11, 11exs., 海植; 10/20, 4exs., ?; 10/27, 1ex., 漂 D



アリモドキ科 Anthicidae

クロホソアリモドキ *Anthicus baicalicus* Mulsant

[採集記録] 8/24, 1ex., 岩

ゾウムシ科 Curculionidae

スナムグリヒョウタンゾウムシ *Scepticus tigrinus* (Roelofs)

[採集記録] 10/10, 6exs., 漂 D

ハマヒョウタンゴミムシダマシ *Idisia ornata* Pascoe

[採集記録] 9/2, 2exs., 漂 D; 9/27, 6exs., 漂 D; 10/3, 3exs., 漂 D, 10/9, 2exs., 漂 D

まとめ

本稿では、わずかであるが下関地域から海浜性甲虫類を報告した。報告した中にはイソジョウカイモドキやゴモクムシダマシなど希少な種が含まれており、今回調査した三軒屋海岸が非常に貴重な環境であることがわかった。ただし、この浜はわずかに残った非常に狭い浜のため環境変化の影響を受けやすいことや浜の前の関門海峡は多くの貨物船等が往来するため、予期せぬ事故（オイル漏れ等）で環境が壊滅的な状況になる可能性も考えられる。そこで、今後さらに調査を行い、極めて貴重な自然海岸である三軒屋海岸の生物相の把握を試み、現状をなるべく多く記録に留めておきたい。

謝 辞

本稿を作成するにあたり、標本の同定をしていただき、さらに有益なご助言を賜った林 成多博士（ホシザキグリーン財団）に対し、記して深謝申し上げます。

引用文献

- 河上康子・林 成多 (2007) 日本海沿岸の海岸性甲虫類の研究 (2) 島根半島, ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 37-76.  
丸山宗利 (2004) 海に棲む昆虫たち, 昆虫と自然, 39(12): 4-7.  
平野幸彦 (1993) 海浜性甲虫類の採集法, 昆虫と自然, 28(11): 7-16.

---

図3 三軒屋海岸で確認した甲虫類

A, ヒョウタンゴミムシ; B, コケシガムシ; C, ヒメケシガムシ; D, フチトリケシガムシ; E, ハマベエンマムシ;  
F, アバタウミベハネカクシ; G, ウミベアカバハネカクシ; H, フトツヤケシヒゲトハネカクシ; I, ホソウミベ  
ハネカクシ; J, *Medon prolixus*; K, アカウミベハネカクシ; L, アオキツツムネウミハネカクシ; M, ヒメホソハマ  
ベゴミムシダマシ; N, クロホソアリモドキ; O, ツシマヒメサビキコリ; P, アカアシコハナコメツキ; Q, スナム  
グリヒョウタンゾウムシ; R, ハマヒョウタンゴミムシダマシ; S, イソジョウカイモドキ (左:♂, 中:♀, 右:幼虫);  
T, ゴモクムシダマシ; U, オオマルチビゴミムシダマシ; V, オオスナゴミムシダマシ. スケールは 5 mm.